



TITLE:

表紙 (泌尿器科紀要 第33巻第9号) ・ 購読要項 ・ 投稿規定

AUTHOR(S):

CITATION:

表紙 (泌尿器科紀要 第33巻第9号) ・ 購読要項 ・ 投稿規定. 泌尿器科紀要
1987, 33(9): 1514-1514

ISSUE DATE:

1987-09

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/119251>

RIGHT:

泌 尿 紀 要

Acta Urol. Jpn.

Vol. 33, No. 9 ACTA UROLOGICA JAPONICA September 1987

泌 尿 器 科 紀 要

第 33 巻 第 9 号 1987 年 9 月

尿路結石再発に関する臨床的検討 (1)結石構成物質の尿中排泄について —特に入院普通食下と外来自由食下の差について—	村山 鉄郎・田口裕功	1321
尿酸カルシウム結石患者における血中尿酸濃度ならびに尿酸クリアランスの日内変動に関する研究, ことに尿酸負荷時の変化について	木下 修隆	1331
水欠乏性脱水の腎機能への影響に関する実験的研究	石川 英二	1342
原因不明の腎性血尿と血清亜鉛に関する臨床的研究	細川 進一	1349
転移を有する腎細胞癌に対する腎動脈塞栓術の効果	増田富士男・ほか	1354
経皮的腎砕石術 (PNL) および経尿道的尿管碎石術 (TUL) に 見られる発熱について	竹内 秀雄・ほか	1357
経皮的腎・尿管結石摘出術—1 期的摘出の経験—	鈴木 和雄・ほか	1364
高齢 (50歳以上) 男子群における尿流量測定の結果 —前立腺集団検診による検討—	高木 良雄・ほか	1368
新しい交感神経 α_1 受容体遮断剤 (塩酸ブナゾシン) による 前立腺閉塞症および神経因性膀胱の治療成績	瀧田 徹・ほか	1375
経直腸的前立腺縦断法による排尿動態の観察(1)	大貫 隆久・ほか	1385
再発前立腺癌の新臨床効果判定基準による化学療法の評価	井坂 茂夫・ほか	1389
睾丸腫瘍の臨床統計	吉田 一成・ほか	1396
腎横紋筋肉腫の 1 例	日裏 勝・ほか	1404
結節性硬化症に合併した腎 oncocytoma の 1 例	菅尾 英木・ほか	1411
馬蹄腎を伴う嚢胞腎に発生した腎血管筋脂肪腫の 1 例	京 昌弘・ほか	1416
右三重尿管, 左不完全重複尿管の 1 例	後藤 修一・ほか	1420
慢性腎不全を伴った腎盂尿管膀胱腫瘍の 1 例	桐山 功・ほか	1423
悪性所見を呈した尿管の inverted papilloma の 1 例	矢島 通孝・ほか	1427
尿管の inverted papilloma	淡河 洋一・ほか	1432
膀胱内反性乳頭腫	高橋 義人・ほか	1439
膀胱憩室に発生したカルチノザルコーマの 1 例 (英文)	小泉 久志・ほか	1447
膀胱全摘術後に左腎盂尿管および回腸導管内に再発した 移行上皮癌の 1 例	橋本 純一・ほか	1450
Ileocystoplasty 後に発生した膀胱腺癌の 1 例	川村 繁美・ほか	1455
多彩な組織像を示した尿膜管癌の 1 例	北見 一夫・ほか	1459
神経因性膀胱に合併した膀胱周囲膿瘍の 2 症例	斉藤 政彦・ほか	1465
前脊髄動脈症候群による神経因性膀胱の 2 例	伊東 賢二・ほか	1469
同側の腎無形成を伴った精囊腺囊状拡張の 1 例	谷川 克己・ほか	1474
Mesh-Graft Urethroplasty の経験	田中 敏博・ほか	1480
遊離前腕皮弁による陰茎再建術の試み	高崎 登・ほか	1483
陰茎腫瘍の 1 例: 平滑筋肉腫と扁平上皮癌の合併例 (英文)	小泉 久志・ほか	1489
Spermatocytic seminoma の 1 例 (英文)	越田 潔・ほか	1492
胸腹部大動脈瘤を伴った梅毒性睾丸炎の 1 例	大西 規夫・ほか	1496
巨大な陳旧性睾丸水腫の 1 例	沼 秀親・ほか	1500
複雑性尿路感染症に対する OFLX の臨床的效果について	西尾 正一・吉原 秀高	1503
複雑性尿路感染症に対する Enoxacin 長期投与の検討	和志田裕人・ほか	1508

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,

Kyoto University, Kyoto Japan 606

京都大学医学部泌尿器科学教室

購読要項 (1986年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料8,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部宛、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1986年1月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員(年間購読者)に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文5頁(400字×20枚程度)、図(Fig.)10枚、表(Table)10枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書(ワープロ可)、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。年号は西暦とする。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプ(手書き不可)する。
 - (3) 原稿の表紙に標題、所属機関名、主任名、著者名の順に和文で併記する。下段に筆頭著者名と、2語からなる running title を付す。
例：山田・ほか：前立腺がん・PSAP
 - (4) 英文抄録：和文の表紙、本文とは別に標題、著者名、所属機関名、主任名、5語(英文)以内の Key words、抄録本文の順にB5版ダブルスペースでタイプし、別にその和訳をつける。
 - (5) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、主任名、Key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、主任名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (6) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, $^{\circ}$ C などとする。
 - (7) 和文、英文原稿を問わず図、表、写真などは各々台紙に添付し、それらに対する説明文は別紙に一括して Fig. 1 ..., Fig. 2 ..., Table 3 ... などと記載する。説明文は英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。写真はトリ
3. 掲載
 - (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
 - (2) 紙代、印刷費、製本代は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後に行なう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
 - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などに関する研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。
4. 別刷：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

ミシングし、図・表は誤りのないことを確認のうえ、トレースして紙焼したもの(コピー不可)。様式については本誌の図・表を参照する。

(6) 引用文献は必要最少限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例：山田^{1,2,7}, 田中^{1,8-10}) によると)

雑誌の場合—著者名(全員)：題名、雑誌名
巻：最初頁～最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員)：題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年

(7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。

(8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それに従って編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。

(9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部が行なう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。

宮崎 重 新谷 浩
吉田 修(主 幹)